

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO. 121

平成30年12月/平成31年1月合併・年末年始特大号



◆はじめに 年末のご挨拶 理事長 安浦寛人

平成30年、今年も残すところあと僅かとなりました。福岡アジア都市研究所は、本年8月に設立30周年を迎えることができました。これもひとえに賛助会員の皆様を始め、関係者の皆さまのご支援とご協力の賜物と思えます。ここに紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

当研究所は、平成という時代と歩みを共にしてきました。この30年間は、世界も日本も激動と変革の時代であったと思います。ベルリンの壁崩壊からの東西冷戦の終結、それに伴う世界の政治経済の構造の大変化、グローバル化の浸透、情報通信技術による社会システムの変革など時代は大きく変動し続けてきました。また、日本では、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震など大災害に見舞われた時代でもありました。経済的にも、世界第2位の経済大国の座を中国に奪われ、基幹産業であった半導体や電子産業が次々にアジア諸国に抜かれた苦闘の時代でもありました。

今年も災害の多い1年でした。大阪と北海道の地震、西日本豪雨に加え、台風21号、24号による甚大な被害など、人々の生活を根こそぎ奪う自然の猛威を痛感させられました。特に、北海道の地震では、ブラックアウトという電気が全く使えない状況が起こり、スマートフォンも十分充電できず、必要な情報を手に入れられないといった情報化時代が孕む問題も明らかになりました。

明るい話題もありました。2月に韓国平昌で開催された冬のオリンピックでは、小平選手や高木選手のスピードスケート、流行語大賞を取った「そだねー」のカーリング女子、男子フィギュアの羽生選手の2大会連続金メダルなど、日本選手の大活躍が感動を生みました。また、

大坂なおみ選手の全米テニス優勝をはじめ、卓球、バドミントン、水泳など特に女子選手が大活躍し、スポーツでは、いち早く女性活躍の時代が到来しているようです。当研究所でも、女性の研究員や職員が多数派となって、調査研究活動の中心になっております。

今年は、福岡の元気や成長の原因を探る本が出版されるなど、福岡市の都市の魅力が国内外から注目を集めています。また、来年は、「G20 福岡財務大臣・中央銀行総裁会議」と「ラグビーワールドカップ」という2つのビッグイベントの開催も控えており、世界に「福岡」を発信し、成長していくチャンスの年になりそうです。

当研究所は、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指す福岡市の都市政策について、長期的な視点や客観的な視点に立ち、様々な調査研究と提案を行っています。今年度は総合研究として、「Society 5.0における福岡らしさを活かしたまちづくりに向けた研究」に取り組んでいます。福岡らしさを生かしつつ、IoTやAIなどの先端情報技術を活用して様々な社会課題の解決を目指す政策の方向性について調査研究を進めています。新たな価値創出、社会や産業構造の変革など福岡市が持続可能な都市として成長していくための重要なテーマと考えています。調査結果がまとまりましたら、皆さまにもご一読していただくとともに、都市セミナーなどで、ご報告させていただきたいと思えます。

最後になりましたが、皆さま方のご健康とますますのご発展を願い、幸多い新年をお迎えくださいますことを心より祈念申し上げます。

◆URCニュース

①平成30年度第2回 都市セミナー「eスポーツの今と未来」を開催しました。

平成30年11月22日(木)、福岡市科学館「サイエンスホール」にて、平成30年度第2回都市セミナーを開催しました。

今回のセミナーでは、まず基調講演として、(一社)日本eスポーツ連合副会長の浜村弘一様に「日本におけるeスポーツの現状と展望」と題してお話し頂きました。浜村様は、『週刊ファミ通』の編集長、カドカワ(株)取締役などを経て、現在は(株)Gzブレイン 取締役会長でいらっしゃる傍ら、日本eスポーツ連合副会長としてご活躍中です。講演では、日本におけるeスポーツの現状とさらなる普及・発展に向けた取組み内容などについてお話頂きました。

続いてパネルディスカッションでは、社会現象となった「妖怪ウォッチ」をはじめ「イナズマイレブン」や「スナックワールド」など、続々とヒット作を生み出されている(株)レベルファイブ代表取締役社長/CEOの日野晃博様にもご登壇頂きました。日本のゲーム業界の現状を踏まえながら、今後eスポーツによって、コミュニケーシ

ョンがどのように変化していくのか、また、都市や地域の活性化への期待、将来展望などについてお話頂きました。

また、福岡eスポーツ協会の会長を務めており、当研究所の調整係長でもある中島賢一が、福岡におけるeスポーツの現状や今後についてのプレゼンテーションを行いました。eスポーツに関する最新情報やゲーム業界における興味深いお話に会場の参加者も熱心に聞き入っていました。

(山本美香 主任研究員)



②「地方シンクタンク論文アワード2018」において優秀賞を受賞

総務課八角 (福岡地域戦略推進協議会へ出向)、山田研究スタッフ、菊澤研究主査の3名にて執筆致しました論文「スポーツコミュニティによる防災力向上に関する一考察」が、地方シンクタンク論文アワード2018にて優秀賞を受賞いたしました。

この論文を執筆するに至った経緯といたしまして、八角の10年というプロサッカー選手生活の中、スポーツが他分野において様々な問題を解決するのではないかと考え続けてきたというのがきっかけにあり、今回の防災とスポーツという観点での取り組みとなりました。

近年、未曾有の災害が多発している中、「自助」「共助」の重要性がますます指摘されています。しかし、現在の自治会、町内会等を中心とする地域コミュニティでは防災訓練参加率の低下、自主防災組織の高齢化などの要因から、防災主体としての能力低下が懸念されています。その中で災害時の共助を補完する組織として、スポーツコミュニティの可能性に着目致しました。

スポーツがソーシャル・キャピタルに影響を与えることは明らかにされていますし、スポーツコミュニティが持つ「備え」や「つながり」が防災の観点からも利点があると考えられます。その利点を有するスポーツコミュ

ニティが、更に防災に対する「備え」「知識」を持つことができれば、自主防災組織を補う役割

として機能し、地域の防災能力の向上、そして地域課題の解決にも繋がる可能性があると考えられます。

実際に、楽しく、競技的な要素を織り交ぜながらの防災訓練「防リーグ」や、サッカー防災等を事業としている株式会社HITOTOWAなど、「防災×スポーツ」の取り組みも着実に増えてきているのです。

今後、福岡地域戦略推進協議会の取り組みの一つである「防災共創プラットフォーム」などと「防災×スポーツ」の取り組みをしていき、その中での実証を進めていきたいと思っています。

写真:URC 撮影 (八角剛史 総務課職員)



③さくらサイエンスプランを実施しました。

国立研究開発法人科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)として、中国科学技術部農村科技司とのコーディネーションにより、江西省の3つの高校から生徒及び教員(生徒12名、教員等4名)を、平成30年11月11日~18日までの日程で招へいしました。





「さくらサイエンスプラン」は、産学官の緊密な連携により、優秀なアジア地域の青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術

の分野で交流を深めることを目指します。そしてアジア地域の青少年の日本の最先端の科学技術への関心を高め、日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成を進め、もってアジア地域と日本の科学技術の発展に貢献することを目的としています。

福岡市をはじめ、北部九州に立地する大学を訪問し、日本の大学の最先端技術にふれました。九州大学水素エネルギー国際研究センターの訪問や、福岡工業大学半導

体技術研究所・先端測量研究センターの見学と同大付属の高校生と交流、久留米大学のがん先端研究や西日本工業大学の最先端のデザインにふれました。

中国の高校生たちが日本の大学の進んだ研究や教育を学ぶと同時に、元留学生たちの活躍ぶりを見学することによって、日本への理解が深まり、日本留学へのモチベーションの向上につながったのではないかと思います。また、彼ら自身にとっても大変貴重な体験となり、財産になったことと思います。

写真:URC 撮影(嶋岡和久 主任研究員)



④韓国忠南研究院ご一行がURC を訪問されました。

韓国忠清南道のシンクタンクである忠南研究院の연구원と道庁の計画部門職員計4名が11月21日に福岡アジア都市研究所(URC)を訪れました。

韓半島の西部にある忠清南道はかつて百済の都があった地域で、歴史的に中国や日本との交流が盛んでした。今回来



訪された研究員の皆さんも全員日本留学経験者であり、日本の大学の博士号を取得しています。

当研究所のアジア交

流チームが来訪者の皆さんと2時間にわたって懇談しました。研究所の業務内容を説明しながら、財団としての独自性や運営基盤のサポート体制、研究成果の市政へのフィードバック効果などシンクタンクの在り方をはじめ、両国共通の高齢化問題や若者の就職事情、さらに首都への一極集中と国土の均衡ある発展などについて幅広く意見交換ができました。

さらに、忠清南道及び忠南研究院が今年から「環黄海イニシアチブ」に関する計画を樹立させ、環黄海地域でこれから中心的役割を果たしていく目標を掲げていることに鑑み、国際的な研究交流の実態や仕掛けづくりの方法などを中心に、当研究所がこれまでに取り組んできた実績も紹介しました。

忠南研究院との交流は今回が初めてですが、今後、さまざまな形で、具体的なテーマや事項に沿って双方にとって有益な交流連携を進めていくことで意見が一致しました。

写真:URC撮影(唐寅 主任研究員)

⑤福岡市国際視察研修受入報告

2018年11月分の国際視察研修については、7件(韓国115名)で、その内容は、都市緑化政策研修が1件(17名)、福祉施設又は政策研修が4件(48名)、防災教育研修が2件(50名)でした。

12月は、現在(12月17日時点)3件が実施され、12月末までに4件が予定されています。その内容としては、都市景観に関する規制緩和の政策研修が1件(19名)、高齢者及び児童福祉施設の視察が3件(79名)、ゴミ焼却施設の視察が2件(53名)、農業振興施設の視察が1件(23名)です。

視察研修を終えた各訪問団は、福岡市職員の細かな対応及び配慮に、感動を胸にし、お帰りになりました。言

葉や文化の違いもあり、海外の方々に福岡市の取組みを理解してもらおうのは、難しいところもありますが、今後も、このような視察研修が増えて、海外に住みよいまちが次々と生まれることを期待します。



写真:URC撮影(李英雄 国際視察研修担当)

⑥地方シンクタンク協議会九州・沖縄ブロック意見交換会を実施しました。



平成30年11月29日(木)、平成30年度地方シンクタンク協議会九州・沖縄ブロック意見交換会を九州大学伊都キャンパスで行いました。最初に、Big Orange

で「伊都キャンパス完成」と題して九州大学副学長の安浦寛人先生にご講演を頂きました。九州大学伊都キャンパスの計画段階から完成に至るまでを説明して頂き大変参考になりました。その後、九州大学本部キャンパス移転室副室長の坂井猛先生にキャンパスを案内して頂きました。

見学したのは、給水センター、ウエストゾーンから運動場、イーストゾーン、石ヶ原古墳跡展望展示室、中央図書館、椎木講堂です。それぞれの施設にはそれぞれのエピソードがあり、興味深いものでした。

最後に、椎木講堂2階にあるITRI ITOで交流及び意見交換を行いました。九州大学に行く機会があっても、施設の説明を詳しく受けることはなく、今回のようにキャンパス移転の責任者と副責任者から直接説明を聞けて、参加された皆様は大変有意義な時間を過ごされたのではないかと思います。

※地方シンクタンク協議会は日本のシンクタンク58機関が加盟。九州・沖縄ブロックは(公財)九州経済調査協会、(株)よかネット、(株)ちくぎん地域経済研究所、(一財)南西地域産業活性化センター、(公財)福岡アジア都市研究所の5機関。

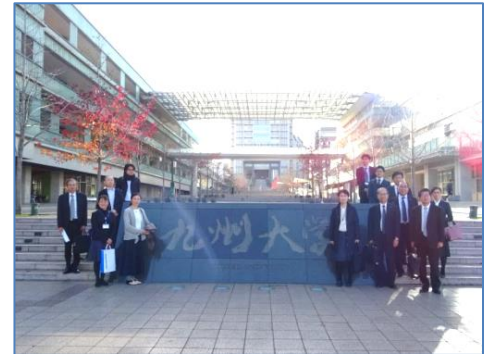


写真:URC 撮影(嶋岡和久 主任研究員)

⑦指定都市まちづくりシンクタンク連絡協議会の総会および視察を実施しました。

平成30年12月6日～7日、第26回指定都市まちづくりシンクタンク連絡協議会の総会および視察を福岡市で行いました。参加したのは、熊本市都市政策研究所、(公財)堺都市政策研究所、(公財)大学コンソーシアム京都、(公財)福岡アジア都市研究所の4機関です。6日の総会では、福岡アジア都市研究所の研究および取組みについて発表をした後、各機関から提案された議題について審議しました。各機関それぞれ個別の事情があり、お互いに参考になったと思います。7日は、昨年10月に開館した福岡市科学館と官民共働型スタートアップ施設 Fukuoka Growth Next を視察しました。福岡市科学館では、基本構想策定から完成までを説明して頂き、最新の設備が導入されているドームシアターや基本展示室等を視察しました。

Fukuoka Growth Next では、福岡地域戦略推進協議会(FDC)事務局職員よりFDCの概要および取組みについて説明を受け、その後施設内のシェアオフィスやスタートアップカフェ等を視察しました。この2つの施設については各都市とも関心が高く、質疑応答が熱心に行われました。



写真:URC 撮影(嶋岡和久 主任研究員)

◆URC資料室ニュース

平成30年度 第3回 ナレッジコミュニティ

「福岡市経済の平成期30年を振り返って」を開催しました。

8月1日、当研究所の前身である財団法人福岡都市科学研究所が設立されてから30周年を迎え、今年度のナレッジコミュニティでは、福岡市のこれまでの30年の変化を様々な切り口で振り返るシリーズを、4回に分けて行っています。

シリーズの第3回目は、12月14日(金)「福岡市の30年の経済の変化について」を岡田允元特別研究員にご講演いただき、23名のご出席者の方と意見交換を行いました。

年末のお忙しい中、多くのご参加ご意見をいただき厚

く御礼申し上げます。

資料室では岡田先生が関わられたURCをはじめとする報告書類を当日ご参加の皆様にご覧いただき、この機会にお読みくださいましたら幸いです。



写真:URC 撮影(山崎三枝 司書)

◆今月のおすすめ

『シングル女性の貧困—非正規職女性の仕事・暮らしと社会的支援』

小杉礼子・鈴木晶子・野依智子・(公財)横浜市男女共同参画推進協会編

(明石書店 2017.9 発行)

国内では、2015 年の「女性活躍推進法」成立や、2018 年の働き方改革の一部にも「女性・若者が活躍しやすい環境整備」が含まれる等、様々な場面で「女性の活躍」という単語を目にする機会が多くなっています。今後、生産年齢人口の減少が見込まれる中で、女性人材を活用していくことへの期待も高まりつつあります。

一方で、「女性」と言っても、年代、職業、ライフスタイル等は様々であり、一括りにすることはできません。その中で、本書は 35～54 歳の非正規職のシングル女性に焦点を当てています。こうした女性たちは、これまで可視化されることのなかった層でもあります。

本書は全 4 部から構成されています。第 1 部は非正規職シングル女性 5 名へのインタビューによる実態の紹介、第 2 部は非正規職シングル女性が置かれている現状と問題の考察、第 3 部では支援の現場から見えてくる「支援の対象になりづらい女性たち」の現状、第 4 部でウェブ調査の結果と分析、グループインタビューの結果が示されています。

調査結果を通じて、本書は、女性たちが置かれている貧困や、孤立感、自分自身の健康への不安や両親の介護、次の仕事に対する不安、住まいの悩み、メンタルヘルスの問題等を浮き彫りにしています。それにも関わらず、現行の支援策の多くは、正規職の女性をさらに活躍させる

ための方向であることや、結婚している人、子どもがいる人が対象となっています。本書はまた、調査の対象とする女性たちが「女性の活躍」という流れから取り残されてしまっているという現状も明らかにしています。

本書の最後では、調査を通じて、「ジェンダー規範に基づく税・社会保障制度や雇用の在り方といった、社会構造のゆがみがより顕著にみえてきた」と述べられています (249 ページ)。今後、本当の意味での「女性が活躍できる社会」が達成されるためには、一人一人の状況に寄り添った支援が必要であること、しかし、そうした社会の実現に向けた道のりは長いであろうという気づきが得られました。

女性の人口の割合が高い都市、福岡市のみなさんにもぜひ手に取って考えていただきたい一冊です。

(中村由美 研究員)



◆所員雑感

日常化する韓国eスポーツ／国内外で世界大会視察／「仕事とは何か」考える

メディアで「e スポーツ」という言葉を頻繁に見聞きするようになりました。e は「電子の」を意味する electronic の頭文字であり、デジタルゲームを使った対戦競技が e スポーツです。福岡市でも 2019 年 2 月 15～17 日、格闘ゲームの世界大会「EVO Japan 2019」が、西日本地域では初めて福岡国際センターで開かれます。大会の側面支援に当たる福岡地域戦略推進協議会 (FDC) の活動として、11 月と 12 月、立て続けに国内外の e スポーツ国際大会を視察し、その熱気を肌で感じてきました。

11 月 3 日、米国、中国に次ぐ市場規模を誇る韓国を訪れ、対戦ゲーム「リーグ・オブ・レジェンド」の世界大会を観戦しました。(写真) 2 万人余りが詰めかけた仁川文鶴競技場には大型ビジョンやステージが設置され、アーティストの華々しい大音響のオープニングライブで大会は始まりました。試合は中国チームが欧州チームを圧倒し、大いに盛り上がりしました。

印象的だったのはその盛況ぶりだけでなく、会場周辺でも楽しんでいるファンの姿でした。応援する選手の写真パネルの前で写真を撮ったり、会場で掲げるために画用紙に選手を



応援するメッセージを書いたり、アイドルコンサートのような光景でした。ファンにとって e スポーツは身近で、選手はヒーローなのだと感じました。

韓国で e スポーツが日常化している現状は、街を歩けば明らかです。日本のネットカフェのような場所で PC ゲームを楽しむ施設「PC バン」が各地にあり、大会をオンライン配信する数百人収容のアリーナも少なくありません。アリーナには国やソウル市が出資した例もあり、官民挙げて e スポーツ文化や産業を盛り立てようとする姿勢に好感を覚えました。



PCゲームを楽しめる施設「PCバン」

12月16日には、千葉・幕張メッセで開かれたカードゲーム「シャドウバース」の世界大会を視察しました。目玉は国内のeスポーツ大会では史上最高額となる1億円の優勝賞金です。「思考の瞬発力

が試される」(主催者)とされる知能戦のゲームでもあり、会場は異様な緊張感に包まれていました。優勝したのは日本人の若者でした。おそらく自分よりも一回り若い彼が巨額の賞金を得て、優勝トロフィーを掲げている姿には、興奮を覚えました。

中韓のようなeスポーツ先進国であっても「ゲームを仕事にするなんて」という風潮は残っているようです。ましてや

日本ではまだまだ根強いでしょう。一方で産業として成長が加速しているのも世界の潮流です。一連の視察をし、そもそも仕事って何だろう、と考えるようになりました。「汗を流し、苦しみに耐える」のも仕事ではあると思います。ただ、ゲームを含め「楽しいこと、好きなことを生業とする」ことが許容される社会は、とても素敵ではないでしょうか。もちろんeスポーツ選手が肉体的、精神的に日々鍛錬して試合に臨んでいることも忘れてはなりません。

2018年は日本にとって「eスポーツ元年」とされ、eスポーツは流行語大賞にもノミネートされました。この流れを受けて来年早々に福岡市で国際大会が開かれることには、eスポーツの普及という大きな意義があると思います。それと同時に、職業としてのeスポーツとは何なのかをより深く考える機会にしたいです。それはとりもなおさず、普及への近道になると信じています。

(小川俊一 FDCマネージャー)

◆特別寄稿 *一人一花の楽しみ* 第10回 12月 ポインセチア・1月 福寿草

福岡市民157万人が一花植えたら157万本の花溢れるフラワーシティになる。市長旗振りで始まった「一人一花運動」で、都心部街路は賑やかなフラワーシティに変身した。また、天神・博多のイルミネーションは冬の夜を彩る定番イベントとなり、遅くまで多くの若者や観光客で溢れている。

紅白出場発表や今年の10大ニュースなど年末・年始へのカウントダウンが始まる12月の一花はポインセチアをご紹介します。原産地はメキシコ地方、トウダイグサ科、ユーホルビア属の低木。学名 *Euphorbia pulcherrima* (ユーホルビア・プルケルマ)、日本には明治中期にアメリカから来日。和名の猩猩木(ショウジョウボク)は赤顔の空想上の生き物に由来する。流通しているポインセチアは、ほとんどが園芸種に品種改良されたものが多く、クリスマスには欠かせない「一花」として愛されている。花市場は11月後半には一面、ポインセチアの棚が並び、クリスマスに欠かせない花として需要と人気の高さがうかがわれる。また、ポインセチアが

クリスマスの花と呼ばれる所以は、赤い苞が星の形に似ていることや、花ことばが「聖夜」だったり、赤、緑、白(樹液)の3色のクリスマスカラーが揃っているところからと思われる。華やかでコニファーに似合う花だ。

ところで、花と呼ばれる赤い所は苞で、中心の黄色い粒が花である。花言葉は花(?)の色で違うが、「赤」は「祝福する」「聖夜」「私の心は燃えている」「ピンク」は「思いやり」「清纯」、「白」は「あなたを慕う」「純潔」など、聖夜の愛の告白にお薦めしたい♪

寒い冬に鮮やかな存在感を示すポインセチアだが、実は寒さや風は苦手なので、10度以下や強風の季節は室内で楽しんでほしい。育て方は意外と難しく、飾る場所もこれからは室内の日当たりのよい場所で、寒い夜は窓辺から室内へ移動させたり、暖かい日は昼間は外へ出し



てあげたりと、世話の焼ける花でもある。もともとは低木なので、過保護な生産者の育て方にもよるのかなとも思うが、環境が合えば毎年楽しめる一花である。無事に冬越し出来たら、短日植物なので、夏場は夕方5時~翌朝9時までは箱をかぶせるなど暗くしておくと、綺麗な赤い苞に色づく。夏場の肥料も欠かせない。水は乾いたらたっぷり与え、乾かし気味がよく育ってくれる。無精者の私は毎年綺麗な赤を楽しんでお別れすることになっている。最後になったが、ポインセチアの名前の由来はポインセット(初代駐メキシコ大使)氏がアメリカに帰国する時に持ち帰り普及させたことで、大使の名前がつけられ「ポインセチア」と呼ばれている。ユーホルビア属とは思えない程の名前の浸透で「ポインセチア属」と呼びたいのは私だけだろうか・・・クリスマスに欠かせない程の存在感満載の12月の一花「ビバ! ポインセチア」に改めて感謝したい。

平成31年1月の一花として、ご紹介したいお薦め花は「福寿草」(フクジュソウ)、平成最後の御世となり、
 巷では新しい年号の噂でもちきりとなる来る年も、いつもと変わらぬ姿で元旦を祝ってくれる福寿草は別名「元旦草(ガンタンソウ)」「朔日草(ツイタチソウ)」と

も呼ばれる縁起花だ。

キンポウゲ科フクジュソウ属の多年草で山野草としても人気の品種。人参の様な葉を付け、花は光沢のある鮮やかな黄金色。1月1日の誕生花。花言葉は「永久の幸福」「福を招く」「祝福」など目出度い系が多いのも嬉しい。迎春用としてヤブコウジなどと寄せ植えでお洒落に仕立てられた商品も見かけるが、私は人知れずひっそりと春を告げる福寿草がたまに好きだ。温暖化の昨今は身近で生えている姿を見ることは少ないが、江戸時代から園芸種として長く愛されている春告げ花だ。

記念切手に使用されることも多く、絵の素材としても人気があり、見るだけでおめでたパワーが伝わる小さくも有難い花である。人知れずひっそりと木々の下草として冬の木漏れ日をあびる姿に心魅かれている。フクジュソウやカタクリやニリンソウなど「スプリングエフェメ

ラル」と呼ばれる植物は春の短い間に花を咲かせ光合成をして夏以降は地上から姿を消し、土の中で栄養を貯え春を待つ「春告げ草」のことを指す。「エフェメラル」とはギリシャ語で「儚い・一日の命」等の意味。



いずれも、植物愛好家には人気で、毎年、春の間だけ地上に現れ、芽ぶき、小さな姿で花を咲かせる植物たち。「春待ち草」「春の妖精」などと呼ばれる中、福寿草は最初に私たちに春色を届けてくれる。きっと、皇居のお庭にもどこかで新年を静かに待っていることだろう。

写真提供・執筆: 福博: 花まち研究会 会員 きむらみえこ(環境演出家®)

蔵書点検ご協力へのお礼

資料室は1月26日月曜日から1月27日金曜日まで閉室し蔵書点検を実施しましたが、無事終了しましたので御礼申し上げます。おかげさまで、より正確な所蔵情報を提供できるようになりました。(山崎三枝 司書)

◆URC メディア紹介情報ー最近1か月の情報を中心にー

◎新聞

(2018/12/17 日刊建設工業新聞 11面)

九州風景街道推進会議ら/12月19日に福岡市で10周年記念シンポ
樗木武前理事長が講演するシンポジウムの開催予告(@印=以下同じ)

(2018/12/15 佐賀建設新聞)

九州風景街道推進会議・九州地方整備局 19日に10周年記念シンポ @

(2018/12/15 長崎建設新聞)

九州風景街道推進会議・九州地方整備局 19日に10周年記念シンポ ながさきサンセットロードの事例紹介も@

(2018/12/15 山形新聞 朝刊 13面)

東京で19年1月から「ポコラート公募受賞者展」及川さん(山形)の作品など展示
市民研究員 OB 藤浩志さんの賞受賞作品が展示されるイベントの開催予告

(2018/12/11 福井新聞 21面)

【福井市】まちの将来 リノベで描く 実践講座が計画プレゼン アート拠点や映画ロケに 再開発との融合に期待 講師陣提言 共存へ情報共有を

URC、FDC OB 後藤太一さんが講師の一人を務めたイベントの開催報告

(2018/12/5 福井新聞 21面)

【福井市】リノベ計画 3案発表 市セーレンプラネットで9日 実践講座受講 15人 集大成

URC、FDC OB 後藤太一さんが福井市の5年後の街の将来を語るイベントの開催予告

(2018/12/4 西日本新聞 朝刊 22面)

G20 財務相会議前に関連イベント展開へ 来月から、推進委

FDC が主催するイベントの開催予告

(2018/11/28 日刊工業新聞 10面)

機振協経済研究所、あす富山市で医療機器講演会

URC OB 山本匡毅さんが講師の一人を務める講演会の開催予告

(2018/11/23 南日本新聞 朝刊 19面)

芸術体験ワークショップ、出店して/文化薫る地域つくろう=鹿児島市、30日締め切り

市民研究員 OB 藤浩志さんを招いたワークショップがあるイベントの開催予告

(2018/11/22 南日本新聞 朝刊 27面)

DIY やリノベーション考えるシンポ/あす、鹿児島市

市民研究員 OB 吉原勝己さんが登壇するイベントの開催予告(☆印=以下同じ)

(2018/11/22 鹿児島建設新聞)

あす、基調講演等 DIY 鹿児島タウン構想プロジェクト ☆

(2018/11/20 日本経済新聞 朝刊 35 面)

再開発や創業支援加速 天神ビッグバン 移転先確保急ぐ 福岡・高島市政 3 期目 支店経済脱却 IPO なお少なく
URC 開業率データが引用される。

(2018/11/18 沖縄タイムス 朝刊 20 面)

島のアート展 今後どうする/うるま市民ら「イチハナリ」議論
市民研究員 OB 藤浩志さんが講演したイベントの開催報告

(2018/11/9 琉球新報 朝刊 30 面)

今後のイチハナリ「恐れず新企画を」/うるまでフォーラム
市民研究員 OB 藤浩志さんが講演するイベントの開催予告

(2018/11/9 科学新聞 2 面)

平成30年秋の叙勲/榎木武前理事長が瑞宝中綬章を受ける。(※印=以下同じ)

(2018/11/7 読売新聞 朝刊 29 面)

福岡市長選 2018 県都の進路 有識者に聞く(上)「第3極都市」目指すべき
URC フェローの久保隆行さんが当研究所で行った研究成果を基にコメント

(2018/11/5 日刊建設工業新聞 2 面)

18 年秋の叙勲受章者/建設・不動産関係 ※

◎雑誌

(2018/12/1 ふくおか経済 2018.12 月号 Vol.364)

66～75p 特集記事 福岡から「e スポーツ」市場拡大をープロチームや関連企業、団体が発足

72～74p 官民の有志集い 福岡初の専門団体 福岡 e スポーツ協会 FDC にも分科会
中島賢一調整係長が「福岡 e スポーツ協会会長」として紹介され、意欲を語る。

74～75p 中韓や欧米で政府の支援体制充実ー浜村氏が e スポーツテーマに講演
EVO 福岡開催契機に周知拡大へーMICE や観光切り口の振興に活路
URC 都市セミナーの開催紹介記事

編集後記

平成 30 年最後の「URC 資料室だより」は特大号の文字通り、盛りだくさんの内容になりました。クリスマス前の 3 連休、年末年始休暇にゆっくりお読みくださいましたら幸いです。

本号掲載の都市セミナーのテーマは「e スポーツ」で、「ふくおか経済 12 月号」の特集では、浜村弘一日本 e スポーツ連合副会長の基調講演はじめ、中島賢一 URC 調整係長がコーディネーターを務めたパネルディスカッションでの議論が 1 ページ半にわたり紹介されています。中島係長は他に「福岡 e スポーツ協会」の会長としても掲載されています。また、本号「所員雑感」では、FDC のマネージャー小川さんが韓国の e スポーツ事情を報告されています。来月発行予定の「f u+」でも e スポーツを取り上げますし、ますます e スポーツから目が離せなくなりそうですが、家庭では母親と子どもとのバトルがますます激しくなりそうなのが心配です。

ところで、「地方シンクタンク論文アワード」において優秀賞をいただくのは、OB 柳基憲前研究主査受賞以来の伝統で、退職されてからも後の職員に引き継がれているのは、大変嬉しいことです。

さくらサイエンス、国際視察受け入れ、韓国からの研究者訪問など海外との交流が活発でしたが、国内の他のシンクタンクとの交流もこの時期に集中しました。

今回のナレジココミュニティ(通称:ナレコミ)は、交流スペースとの壁をアコーディオンカーテンに変更してから初めての会議室開催でした。これで会場選びの心配が無くなりそうです。

蔵書点検はいつも蔵書と向き合う貴重な時間です。URC 設立から 30 年、アジア太平洋センター統合から 14 年、古い資料も多くなり廃棄を検討しています。

今回の「一花」は合併号なので、2 か月分です。ポインセチアと福寿草、クリスマスとお正月の花です。木村さんのご寄稿は、毎月タイムリーなお花の紹介で、忙殺されそうな毎日の中で季節感を味わう良い機会になっています。

そして、誌面の関係で添付の「資料速報」に掲載している「メディア紹介情報」を本誌に移しています。

今年もわずかになりました。皆様くれぐれもご自愛下さり、楽しいクリスマス、年末年始を過ごされますようお祈りいたします。多くの方々にお世話になったことを心に刻みながら…来年こそは、もっと緻密な仕事ができますように！(心の声)(崎)